

特別企画：四国地区 道路貨物運送業 収入高上位 20 社 業績動向調査（2020 年度）

2020 年度の業績、収入高合計は過去 10 年で初の減少 ～ 利益額合計は過去 5 年で最高額に ～

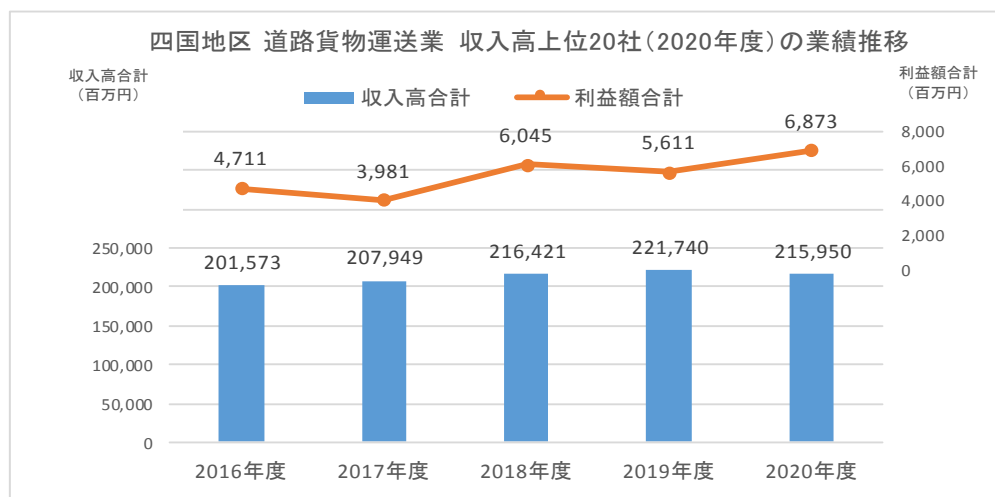
はじめに

国土交通省の発表によると、2020 年度の宅配便取扱個数は、巣ごもり消費を背景に前年度比 11.6% の大幅増となった。一方で、貨物輸送量は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で前年度比 8.5% 減となった。また、近年は長時間労働によるトラックドライバーを中心とした人手不足が深刻化しており、労働環境や取引環境の改善が求められている。

今回、帝国データバンク高松支店は、道路貨物運送業を主業とする業者の業績動向を探るため、2020 年 9 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」（147 万社収録）の中から、2016 年度（2016 年 4 月期～2017 年 3 月期）から 2020 年度（2020 年 4 月期～2021 年 3 月期）まで 5 年間の決算の収入高と利益額が比較可能な、四国地区に本社が所在する道路貨物運送業収入高上位 20 社を抽出し、収入高別、利益額（当期純利益）別、収入高ランキングについて分析した。

調査結果（要旨）

1. 2020 年度の収入高合計は 2,159 億 5,000 万円
前年度と比べて 57 億 9,000 万円（2.6%）少なく、過去 10 年で初の減少
2. 2020 年度の利益額合計は 68 億 7,300 万円
前年度と比べて 12 億 6,200 万円（22.5%）多く、過去 5 年で最高額に



1.収入高合計推移、過去 10 年で初の減少

四国地区に本社が所在する道路貨物運送業の収入高上位 20 社について、2016 年度～2020 年度決算の収入高合計をみると、2020 年度は 2,159 億 5,000 万円となり、前年度と比べて 57 億 9,000 万円（2.6%）少なく、2010 年度以降の過去 10 年間で初めて減少した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、製造業者の稼働率低下に伴う物流量の減少などが要因としてあげられる。

収入高上位 20 社の増減収の内訳をみると、増収は前年度より 13 社少ない 3 社となり、過去 5 年では最も少なかった。一方、減収は前年度より 13 社多い 17 社であった。

年度	収入高合計 (百万円)	前年度比 (%)	増減収の社数(前年度比)		
			増収	横ばい	減収
2016年度	201,573	1.9	12	3	5
2017年度	207,949	3.2	15	0	5
2018年度	216,421	4.1	15	1	4
2019年度	221,740	2.5	16	0	4
2020年度	215,950	▲ 2.6	3	0	17

※「横ばい」=増減率±0.1%以内

2.利益額合計推移、過去 5 年で最高額に

2016 年度～2020 年度決算の利益額合計（当期純利益）をみると、2020 年度は 68 億 7,300 万円となり、前年度と比べて 12 億 6,200 万円（22.5%）多く、2 年ぶりに増加したほか、過去 5 年で最高額となった。2019 年度はトラックドライバー確保に向けた人件費の上昇などが減益要因となっていたが、2020 年度は燃料価格の落ち着きや運送単価の引き上げ効果などが増益要因となったもよう。

年度	利益額合計 (百万円)	前年度比 (%)	増減益の社数(前年度比)		
			増益	横ばい	減益
2016年度	4,711	42.4	15	0	5
2017年度	3,981	▲ 15.5	9	0	11
2018年度	6,045	51.8	13	0	7
2019年度	5,611	▲ 7.2	10	0	10
2020年度	6,873	22.5	11	0	9

※「横ばい」=増減率±0.1%以内

3.まとめ

今回の調査で、四国地区に本社が所在する道路貨物運送業の収入高上位 20 社における 2020 年度の収入高合計は、過去 10 年間で初めて減少した。経済成長に合わせて堅調に推移してきた物流量に加えて、E C（電子商取引）市場の拡大に伴う宅配貨物取扱個数の増加などで増収基調が続いていたが、世界的な新型コロナウイルス感染拡大による生産活動の停滞が減収の要因となっている。一方で、利益額合計については、燃料価格の落ち着きが一要因となり、2 年ぶりに増加した。

2021 年度に入っては、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響が残るものの、9 月 30 日に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除され、その後も新規感染者数は減少している。国内でのワクチン接種が進み、Go To トラベルや飲食店でのクーポン配布などにより経済の活性化に期待がかかっている。物流量の回復は、コロナの収束次第ではあるが、政府による景気対策もあり、企業の生産活動や設備投資は回復傾向にあるため、貨物輸送量も増加に転ずるとみられる。

ただ、ドライバーを中心とした人手不足は潜在的な課題として残っていることや、ここにきての燃料価格の上昇が収益面に与える影響が大きいことから、引き続き動向に注目したい。

<参考>

四国地区 道路貨物運送業 収入高上位20社 2020年度収入高ランキング (単位:百万円)

順位	商号	所在地	年収入高 (2020年度)	前年度比 増減	前年度比 増減率(%)
1	ダイオーロジスティクス 株式会社	愛媛県	49,470	↓	▲ 0.4
2	一宮運輸 株式会社	愛媛県	25,637	↓	▲ 1.4
3	四国西濃運輸 株式会社	愛媛県	15,494	↓	▲ 7.1
4	四国名鉄運輸 株式会社	愛媛県	15,257	↓	▲ 2.5
5	丸協運輸 株式会社	愛媛県	12,754	↓	▲ 1.5
6	四国高速運輸 株式会社	徳島県	11,192	↓	▲ 4.0
7	四国福山通運 株式会社	香川県	9,700	↓	▲ 1.8
8	森実運輸 株式会社	愛媛県	9,534	↓	▲ 2.6
9	徳島通運 株式会社	徳島県	8,230	↓	▲ 5.2
10	神山運輸 株式会社	愛媛県	7,544	↓	▲ 2.1
11	JAえひめ物流 株式会社	愛媛県	6,330	↓	▲ 4.8
12	大西物流 株式会社	愛媛県	6,212	↓	▲ 6.5
13	四国運輸 株式会社	高知県	6,060	↓	▲ 6.0
14	東海運 株式会社	徳島県	5,431	↑	4.6
15	瀬戸運輸 株式会社	香川県	5,219	↑	0.3
16	株式会社 朝日通商	香川県	5,001	↓	▲ 6.8
17	株式会社 四国物流サービス	香川県	4,749	↑	1.8
18	伊予商運 株式会社	愛媛県	4,380	↓	▲ 11.7
19	三豊運送 株式会社	香川県	3,930	↓	▲ 3.5
20	瀬戸内陸運 株式会社	香川県	3,826	↓	▲ 0.7

【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 高松支店 担当：須賀原 欣彦、道田 祐一

TEL：087-851-1571 FAX：087-851-3837

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。